

**2022～23年度
(令和4～5年度)**

**柏市
町会・自治会・区
活動事例集**

**柏市市民活動支援課
柏市地域協働を考える会**

はじめに

1. 作成趣旨

この事例集は、柏市内の町会（本編では町会・自治会・区の名称は町会に統一し記述します）の積極的な取り組みや実情を広く紹介するもので、7冊目になります。

地域活動にあっては、困り事など多くの課題がありますが、課題の解決に一生懸命取り組んでいる町会もあり、課題解決のヒントを得るために、市内の町会を取材し、事例集としてまとめました。

今回も前回と同様に、新型コロナウイルス感染症の影響により取材が滞り、2年間分をまとめました。2023年度にはようやくコロナ感染症拡大が収まり、慎重ながらも各町会の活動も再開されました。しかし3～4年間の活動自粛の影響は大きく、どのように行事や運営を行うのか分からず戸惑う実情もありました。今後は持続可能な町会運営を念頭に、活動を進める必要があると考えます。

この事例集を手にとって下さった方が、御自身の町会行事や運営について、他地域の取り組みを知り、今後の地域活動に活かしていただければ幸いです。

2. 協働事業紹介

現在、柏市地域協働を考える会と柏市市民活動支援課は、協働で地縁組織のあり方を模索しており、この事例集はその一環として取材と編集を行いました。

事例集の他、町会等活動講座やICT活用講座の開催などを協働で開催し10年目となりました。町会の情報交換の場は18回目を開催することができました。

3. 柏市地域協働を考える会の紹介

本会は、柏市市民活動支援課と協働し、町会の困りごとや課題について共に考え、これを自ら解決することを目的に、2014年に発足した公益活動団体です。柏市と町会の協働促進に役立てることを目指し、中間支援を行っています。

是非、ホームページをご覧ください。

柏市 考える会

検索

目 次

1. 町会の加入率の実態	… P. 3
2. 町会活動再開の実態と課題	… P. 3
3. これからの持続可能な町会活動	… P. 5
4. 特徴ある活動事例	
1) 町会運営（重点的な町会運営）	… P. 7
2) 町会行事	… P. 13
3) ICT化への取り組み	… P. 16
4) 市民活動団体等との連携	… P. 17
5. アルバム	… P. 18
6. 資料編	… P. 21
7. 町会等活動講座と取材活動の紹介	… P. 22



1. 町会加入率の実態

柏市の町会加入率は年々下がっています。一時的に 2020 年の国勢調査により全世帯数が減少し 2021 年度（4/1 時点）の加入率は上がりました。また、2022 年度は全市的に加入世帯数が増え加入率も 65%に上がりました。しかし、2023 年度より加入世帯数は再び減少し、2024 年度の加入率は約 62%で横ばいとなり、市内の約 38%の世帯（約 7 万 5 千世帯）が町会に加入していない状況となっています。

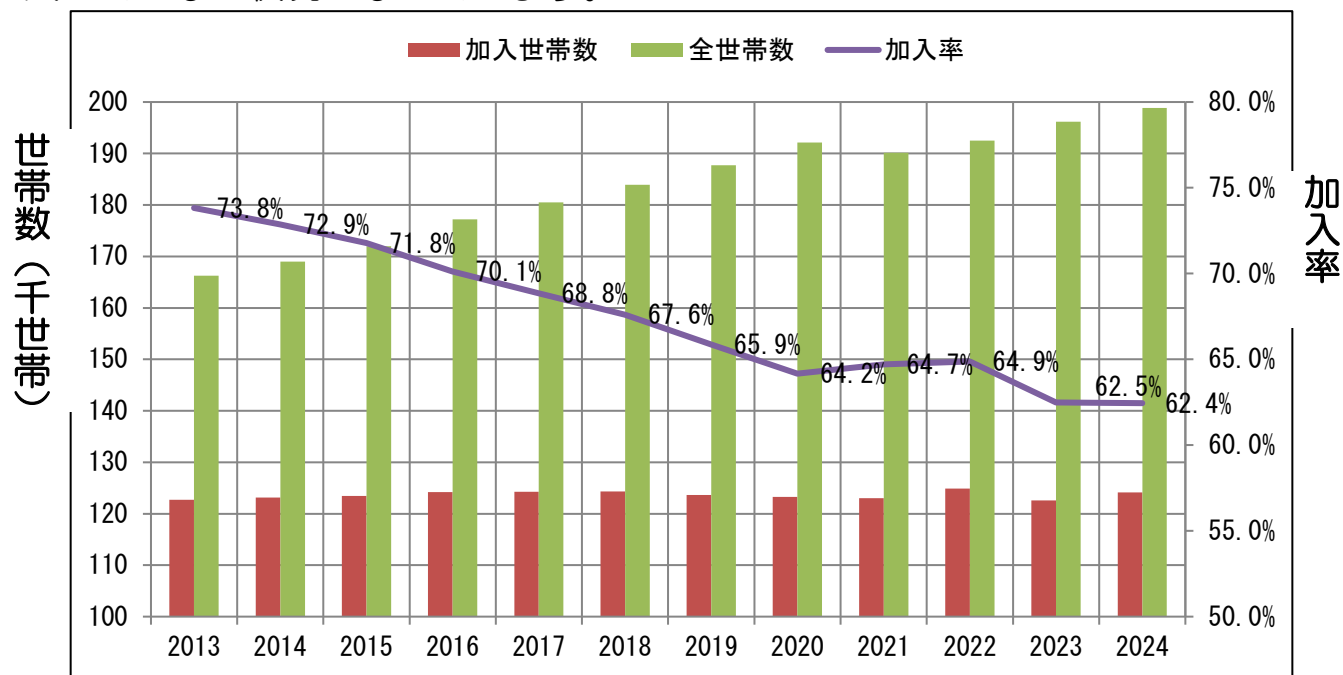


図 1. 柏市の町会加入率推移（毎年 4/1 時点）

コロナ禍により町会活動が停滞した期間を過ぎようやく活動が再開されていますが、町会を退会する人たちが増えています。改めて町会活動の情報を積極的に発信し、多様な生活スタイルを持つ人たちが活動し易い運営方法に見直し、加入者を増やすことが必要と考えます。

2. 町会活動再開の実態と課題

1) 活動再開の実態

コロナ禍が収まらない 2022 年度は町会活動も自粛され、感染防止を施した上での活動に限定されていました。しかし 2023 年 5 月にコロナ感染症が 5 類に移行したことから、町会活動は再開され、夏祭りや防災訓練等を開催した地域が多くあり、参加者も久しぶりの地域のお祭りや行事に大勢参加し、大いに盛り上がっています。

具体的な内容は、p 7 以降の「特徴ある活動事例」をご参照下さい。

2) 町会活動の課題

行事や会合も徐々にコロナ禍前に戻りつつありますが、多くの課題もあります。コロナ禍による影響や従来からの課題、また新たな課題も見られます。

【コロナ禍での行事等自粛による課題】

- ①行事の運営方法などが継承されず開催、実施に苦労した。
- ②町会の活動が無くても生活に支障がなく、町会に入っている意義を感じる
ことが無いため退会者が増えた。
- ③人と接する事が少なくなったため、転入者へ加入を勧誘する機会が得られ
ず、新規加入者が増えない。
- ④何も活動しないため、何も問題の無い町会がある。世帯が少ない町会は無
理に行事を行う必要は無いものの、市からの情報や対応から疎遠になって
いる。

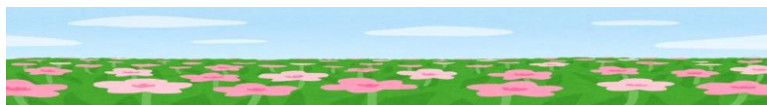
【従来からの課題】

町会役員や地域住民の高齢化、多様な働き方や価値観を許容する社会環境
への変化の中で、町会運営がとても難しい状況となっています。

- ①若い世帯、高齢会員の退会、老若男女の独り住まいの未加入世帯が増加。
- ②担い手がおらず、活動の継承が困難（資料や運営方法の引継ぎなし）。役員
のみならず民生委員等各委員の選任も困難。
- ③町会活動が停滞した結果、防災防犯意識の低下や孤立する住民が増加。
高齢化が進み、お祭りや子ども会も無くなってしまい、町会内の人の顔が
見えない。
- ④空き家や空き地の増加により住環境が悪化し、治安維持が低下。

【新たな課題】

- ①町会役員が成人男性主体で構成され、女性や障がい者、外国人、一人住ま
い、学生の意見が反映され難い運営となっている。柏市の女性会長比率は
他市と比較すると若干高いものの10%に過ぎない。
- ②町会予算の使途が明確に説明されず、会員の理解を得られない。特に寄付
金や負担金については、町会未加入者との不公平感を感じている会員が増
加。



3. これからの持続可能な町会活動

町会活動は、その地域に安心して暮らし、充実した人生を送るために皆で協力し合って行う活動です。これからは賑わいの創出（人と人の繋ぎ）と様々な市民活動団体や福祉への繋ぎ役（見守り）になると考えます。

1) 高齢化への対応

①若い世代を主体とした活動への移行

若い世代や共働き世帯、様々な人々が町会活動に参加しやすい内容に移行するよう、世代交代を積極的に進める。多くの人々が参加することにより、子どもや高齢者、独り住まいの見守り支援が実現できる。

②近隣町会との共同運営

特に世帯数の少ない町会は、近隣町会と協力し合うことにより活動を継続することを検討する。

③協力団体や市民団体との連携

役員だけで町会運営を行うのではなく、役員経験者が町会運営を支援する協力団体を設立し、町会行事の一部運営を担う。また町会内では活動する人がいない場合は、地縁に拘らない市民活動団体やNPOより活動支援を受ける。

2) 加入促進

①会員への活動の見える化（退会抑制）

普段から回覧や掲示板、ホームページの活用により、町会の行事や活動を紹介し、積極的に協力を求める。またサークルや会合の案内を掲載し、楽しむ機会を増やす工夫を行う。

②転入者、未加入世帯への加入促進

町会への関心を高めるため、転入者や未加入世帯を含め加入案内や町会紹介資料等を全戸配布する。



「町会への加入の勧誘」を参考にしてください。

以下もしくは右のQRコードをご参照下さい。

→<https://www.city.kashiwa.lg.jp/shiminkatsudo/region/chokai/kanyu/tool.html>

3) 担い手確保

①役員の負担軽減

行事や事業単位で実行委員会やプロジェクトを設立し、役員だけの負担にならないように多くの会員に協力を求める。またICT活用を促進し、若い世帯や共働き世帯でも活動のし易い方法を取り入れる。

②誰でも担い手になれる町会運営

仕事を整理し、引継ぎし易いように文書化することにより、役員を輪番で担い負担を分散する。その際、高齢化や健康問題などで担当が困難な人

は免除する制度導入を合わせて検討する。

③楽しむ活動の心がけ

皆で楽しく進めていくことが大切であり、役員や会員との懇親を深める場を設定する。

4) 賑わいの創出

町会活動の真髄は、人と人のコミュニケーションを図ることにあり。賑わいや楽しさを創出し、顔と顔が分かり安心して暮らせる地域作りを進める。

5) 運営の改善

①皆で相談し、皆で解決する運営を

多くの役員や関係者と情報を共有し、相談しながら町会運営を進めるよう心掛ける。一部の役員だけの運営による会員との意向の乖離や、一部の会員への不当な扱いを防ぐ。

②誰でも参加出来る運営へ

多様性が進展する中で、女性や障がい者、外国人、一人住まい、学生が参加し、誰もが住み易く活躍出来る町会運営が求められる。役員は無理でも、行事の実行委員やサポーターとして参加できる機会を増やす。

③前例踏襲の運営から時代に合った運営へ

行事を行う意義が失われている、参加者が少ないのに継続している行事や事業は見直しが必要。しかし思い切って新たな行事を提案する際には、前例の意義や目的を理解した上で変更することも必要。

④業務量の低減（仕事の効率化、ICT化など）

町会運営には、会議開催、町会費集金、回覧、ふるさと会館管理、引継ぎ、高齢化対策、担い手確保など多くの項目がある。ICTを活用し若い世代や共働き世帯が参加し易い運営を心掛ける。オンライン会議やオンライン回覧、ホームページの開設、町会費の電子決済、町会資料のデジタル化を推進する。

⑤誰でも役員を担える引継ぎ方法や協力体制構築

マニュアル類（町会運営ガイド、防災マニュアル、規約）を整備する。また輪番制の役員では解決が難しい課題については、プロジェクトや検討委員会を設置し、年度を超えた協力体制を構築することが大切。

⑥会計の明朗化

支出の内容を明確にし、会員の理解を得ることが大切であり、特に寄付金や負担金についても、その必要性や金額の妥当性、町会未加入者との不公平感について検討する必要がある。また活動に必要な経費は、個人払いしない配慮をする。

⑦会員への情報発信とニーズ把握

地域に向けて、手紙、広報紙、アンケート、掲示板を活用し、積極的に情報発信する。合わせて会員のニーズをしっかりと把握するため、会員がどのように考え、町会に何を望んでいるのかアンケート等で知る事も必要。

5. 特徴ある活動事例

(2022～2023 年度（令和 4、5 年度）取材分）

各町会の施策につき以下に記載致しますが、今までに 118 町会の貴重な情報を平成 27～令和 5 年度の各年度の事例集にまとめております。合わせてご活用下さい。柏市役所および柏市地域協働を考える会のホームページよりご覧頂けます。

○柏市市民活動支援課

以下もしくは右の QR コードをご参照下さい。

→ <https://www.city.kashiwa.lg.jp/shiminkatsudo/region/shiminkatsudo/katsudojoho/2079.html>



○柏市地域協働を考える会

以下もしくは右の QR コードをご参照下さい。

→ <https://kyodoukai.org/operation/operation-care/>



1) 町会運営（重点的な町会運営）

①布施新町町会の活動事例紹介

【町会概要】

1. 地域 : 富勢地域
2. 世帯数 : 1181 世帯（令和 5 年 4 月）
3. 町会設立 : 1975 年

【重点的な町会運営】

- 1) 今まで「ごみ当番の負担軽減」に注力し、柏市環境サービス課と相談の上「イケイケカラス」等を試験導入し、その後に設置場所を調整した上で、50 か所に本格導入出来た。
- 2) 現在、高齢化（平均年齢 70 歳超え）に伴い災害リスクが大きくなる中で、町会役員は 1 年交代で防災活動は準備不足の状態である。防災（洪水含め）への準備が急務でありリーダーの育成や女性の参加が必要と考えている。自主防災組織や避難所運営について見直しを検討する。
- 3) 既存の事業継続が困難になっていることや、新しい世帯（未加入世帯）への対応も必要である。
- 4) 地域に「みらいプロジェクト」「いきいきネットワーク」「防犯パトロール」の市民団体があり活発に地域活動を行っている。町会はその活動を支援している。

②西原第六町会の活動事例紹介

【町会概要】

1. 地域 : 西原地域
2. 世帯数 : 168世帯（令和5年4月）
3. 町会設立 : 1973年

【重点的な町会運営】

- 1) 加入促進は、町会域に新築した場合に町会の会則、会員名簿や会員住居地図を配布し入会を勧誘している。未加入会員や退会者は数名なので特別には行っていない。
- 2) 運営の実情や課題は、最大のイベントである餅つきの「冬まつり」などは、コロナの感染を危惧する意見があり中止している。
町会費は西原地域では一番高額であるが、その一部は会館の維持費に充てている。

③東山町会の活動事例紹介

【町会概要】

1. 地域 : 光ヶ丘地域
2. 世帯数 : 652世帯（令和5年4月）
3. 町会設立 : 1960年

【重点的な町会運営】

- 1) 加入促進は、新規転入者には原則各部長が入会をすすめており、町会加入率は93%である。
- 2) 住環境改善は、ごみ集積所の現状を調査したところ半分以上がブルーシートを利用しておりカラス被害もあった。町会も町会予算や資源ごみ還付金を基礎に補助金を（会員1000円、非会員は500円）拠出し、ゴミ集積所ごとに必要な大きさの防御ネットボックスを購入し設置。
- 3) 賑わい創出は、コロナ禍で中止していたお祭りを再開。子供神輿や山車、各種ゲーム、太鼓の披露、バザー、射的など小さいお子さんからお年寄りまで楽しんだ。お祭りには、町会内の子供会、踊りの会、太鼓の会、天寿の会（シルバー会）、野球部、うさぎの会（サロン）、有志の会（お祭りの時だけ活動）などが参加。

④クレスト柏自治会の活動事例紹介

【町会概要】

1. 地域 : 高田・松ヶ崎地域
2. 世帯数 : 76世帯（令和5年4月）

3. 町会設立：1986年

【重点的な町会運営】

- 1) 担い手確保は、基本輪番であり12～13年頃前まではきちんと守られていたが、高齢化のため引き受け手が年々減ってきており、役員の免除等は現役員の話し合いで決めている。
任期は自治会・管理組合とも2年で再任は妨げないとなっている。当初は1年だったが2年に変更。
管理組合役員との関係は、ほぼ兼任であり、交代は業務に支障が起きないように半数ずつとしている。
- 2) 自治会運営改善は、業務等の引継ぎは全ての議事録が保管されており、一斉交代ではないため支障は起きていない。業務のアウトソース等も考えてみたが、費用負担が厳しい。年金暮らしが多いので会費は上げられない。
- 3) 住環境改善は、花壇作りを始め、マンションの環境保全に努めている。入居当初は各入居者が個別に植栽などを行っていたが、次第にやる人が少なくなってきたので自治会で対応している。

⑤ミックスガーデン柏の葉自治会の活動事例紹介

【町会概要】

1. 地域 : 高田・松ヶ崎地域
2. 世帯数 : 38世帯（令和5年4月）
3. 町会設立：2010年

【重点的な町会運営】

- 1) 担い手確保は、立候補制だが立候補者がいないことが多く、くじ引きとなる。（会長以外は立候補者がいる）。任期は1年、役員手当は無し、引継ぎ方法は以前は引き継ぎ会を行っていたが、現在は必要に応じ役員間で個別に行っている。
- 2) 運営改善は、必要に応じ都度アンケートを取って活動や対策を決めている。

⑥寿町会の活動事例紹介

【町会概要】

1. 地域 : 高田・松ヶ崎地域
2. 世帯数 : 640世帯（令和5年4月）
3. 町会設立：1960年

【重点的な町会運営】

- 1) 加入促進は、新規入居者には班長が声掛けし、現状では問題なく入会して貰っている。

- 2) 担い手確保は、規約上は公募となっているが、応募する人はまずいないため、実態は再任か 1 本釣り。20 年ほど前は輪番制であったらしいが、うまくいかなくなり公募に変更。尚、役員の役割は明文化して紙面及び PC にも保管しているため、引継ぎに支障はない。
- 3) 運営改善は、コロナ禍の中で行事が減り余った予算で、掲示板 5カ所を改修(扉付き掲示物を磁石で添付可)した。これにより掲示物が風で飛ばされることが無くなり、掲示物の貼り換えも楽になって仕事が軽減された。また、業務や活動をまとめ「寿町会業務マニュアル」を作成した。

⑦十余二緑町町会の活動事例紹介

【町会概要】

1. 地域 : 西原地域
2. 世帯数 : 298世帯(令和5年4月)
3. 町会設立: 1971年

【重点的な町会運営】

- 1) 高齢化への対応として、いずれ町会活動が出来なくなるため、現在「ふるさと祭り」などは、行事实行ボランティアの協力を得て進めている。
- 2) 加入促進は、加入率 98.0%と高いので、特に対策は行っていないが、町会活動の魅力をアピールしていきたい。
- 3) 担い手確保は、現行役員数は維持し、町会内の色々な役目を増やしワークシェアにより一人あたりの負担を減らしたい。しかし町内には班数(役員数)を減らしたいとの意見もある。民生委員は一本釣り、健康づくり推進員は欠員。
- 4) 運営改善は、コロナ禍でイベントは中止となったが、会館整備として照明の LED 化(2021 年度)、2022 年度には先送りされてきた掲示板の建て替えやコピー機の更新、発電機等の防災備品の更新を行った。
- 5) 運営の実情や課題は、高齢化・担い手不足・地域への関心低下、価値観の多様化である。楽しくなる町会活動を目指したいが、1 年交代の役員での改革は絶望的であり、事務局を設置し持続可能な町会運営を検討したい。

⑧宿連寺町会の活動事例紹介

【町会概要】

1. 地域 : 富勢地域
2. 世帯数 : 780世帯(令和5年4月)
3. 町会設立: 1960年

【重点的な町会運営】

- 1) 加入促進として、新たな会員を増やすために転入世帯へ、入会しませんかパンフレット、町会だより、年間行事、総会案内、防災ファイル（独自の防災マップ等をファイリングしたもの）をブロック長が持って行き、説明・勧誘している。尚、防災ファイルは全戸に配布している。

⑨西柏台明光町会の活動事例紹介

【町会概要】

1. 地域 : 西原地域
2. 世帯数 : 159世帯（令和5年4月）
3. 町会設立 : 1970年

【重点的な町会運営】

- 1) 近隣町会と共同でふるさとセンターを運営し、活発に活動している様々な団体が利用している。また防災訓練もふるさとセンターが主催し年1回行われている。センター長は2年交代で、近隣町会順番で選出している。
- 2) 次期役員が活用できるよう、町会運営の手引書を作成している。
- 3) 役員の負担感があり加入率が低下しているため対応策が必要と考えている。一方負担軽減のために行事や事業を止めたことから、コミュニケーション低下が懸念され、多岐にわたり検討する項目が多い。

⑩香取台町会の活動事例紹介

【町会概要】

1. 地域 : 高田・松ヶ崎地域
2. 世帯数 : 285世帯（令和5年4月）
3. 町会設立 : 1969年

【重点的な町会運営】

- 1) 自主防災組織はあり担当する役割は決まっているものの、活動は行っていない。事務的であり実際に発災があった時に動けるのか不安がある。現実的な防災訓練を検討している。
- 2) 負担感の中には、クレームを受けることや役員がなかなか決まらず夜遅くなってしまうこと、仕事量が多いことが上げられるが、ちゃんと向き合って話し合えば解決できることも多い。話し合いを大切にし、コミュニケーションを楽しむことにしている。また誰でも出来る町会長を心がけている。

⑪ 柏楽園町会の活動事例紹介

【町会概要】

1. 地域 : 藤心地域
2. 世帯数 : 864世帯（令和5年4月）
3. 町会設立 : 1964年

【重点的な町会運営】

- 1) 役員決めはくじ引きであり、役員総入れ替えになったものの町会運営の資料が不十分で活動が難しい。前例踏襲に拘らず新たな行事や事業を進めている。また運営の手引書などを揃え、運営方法を見直す必要がある。
- 2) 町会運営で不明点も多く、難しいと感じている。町会加入の理由も説明に困ることがあるので、対応策を検討する必要がある。

⑫ コミュニティー八幡町会の活動事例紹介

【町会概要】

1. 地域 : 高田・松ヶ崎地域
2. 世帯数 : 10世帯（令和5年4月）
3. 町会設立 : 2010年

【重点的な町会運営】

- 1) 町会行事は無く、ごみ収集と防犯灯維持、回覧を活動としている。防災活動や福祉活動は行っておらず、ふるさと協議会にも未加入。
- 2) 市からは行政連絡費と防犯灯助成金を受け取っている。
- 3) 役員は原則輪番制。高齢を理由にスキップする人もいる。定例役員会はせず、必要に応じて話し合いを行っている。

⑬ 塚崎二丁目自治会の活動事例紹介

【町会概要】

1. 地域 : 風早北部地域
2. 世帯数 : 196世帯（令和5年4月）
3. 町会設立 : 2006年

【重点的な町会運営】

- 1) ICT化促進として、自治会アプリ（JichiNavi）導入と自治会資料の電子保存を推進した。役員間の情報共有や会員からの情報提供が活発になった。
- 2) 従来の掲示板が木製で使えない状態であったので、アルミ製に交換。綺麗で見易くなったと評価を得た。
- 3) 今後、防犯カメラの設置や近隣自治会との情報共有が必要。

2) 町会行事

ようやくコロナ感染症が2類から5類に移行したことから、中止していた町会の行事が慎重ながらも再開されました。やはり人と人が顔を合わせてコミュニケーションを図る行事には多くの人たちが集まり、楽しそうに懇親を深め、町会の価値が再確認されたと感じます。一方、活動が停滞した4年間を経て引継ぎが無く、町会活動を再開するものの資料が残っておらず、町会の運営に苦慮している実情もあります。

新たな気持ちで行事や事業を始めると共に、持続可能な町会活動を目指し、運営記録を残し、活用できるものにした上で、次期役員に引き継いで頂きたいと思います。

【防災訓練・備蓄】

多くの町会がコロナ禍でも、防災防犯活動は何らかの形で継続していました。やはり防災防犯活動は町会活動の主事業であることは間違いありません。各町会の活動内容は、今まで発行した活動事例集も是非ご参考にしてください。



「町会・自治会・区 活動事例集」

以下もしくは右のQRコードをご参照下さい。

→ <https://www.city.kashiwa.lg.jp/shiminkatsudo/region/shiminkatsudo/katsudojoho/2079.html>

- ①避難訓練は、年1回実施(消防署員要請でAED、通報訓練等)。起震車による訓練はコロナ禍で出来なかったが48名が参加。
- ②2ヶ月に1回防災委員が階段毎に見回りをして、避難通路確保のため階段下の自転車放置やバケツ等を片付けるように各戸に要請し守られてきている。
- ③各戸に安否確認用マグネット付き”安全シート”を渡してあり、災害時に玄関扉に貼ることになっている。
- ④自主防災会の隊長は、自治会の副会長が兼任
(以上、クレスト柏自治会)
- ⑤防災訓練は、年1回消防署に来てもらい、班長の月例会時に避難・通報・消火訓練を実施している。ふるさと協議会主催での防災活動に積極的に協力し、特に近隣の第四小学校とのパイプ役を寿町会が担っている。また防災倉庫を新設した。(寿町会)



⑥2022 年度にはふる協の防災訓練に参加するとともに避難経路の確認を行った。安否確認訓練、k-net 要支援者の見守りは 2020～2022 年に毎年行った。特に安否確認等を行うブロック長を置くブロック制をとっている。また災害時のトイレ設置場所として会館横の旧下水処理槽を利用できるようにしている。(十余二緑町町会)

⑦ふるさとセンターは近隣町会と共同所有しているセンター主催の防災訓練を毎年行っている。(西柏台明光町会)

【防犯活動】

①月 1 回の駐禁パトロール時と兼ねて行っている。また棟委員が会員非会員問わず、見守り活動（声掛け）を行っているが、若い世帯は参加なし。(豊四季台団地自治会)

②防犯カメラは 7～8 年前から設置されており、過去に 2 度警察から記録の提供を要請された。(クレスト柏自治会)

③防犯幟用に塩ビのパイプをあらかじめ設置し、防犯幟の交換や台風の時の取り外しを容易にした。また防犯カメラの設置は、以前 2 ヶ所で予定し、住民へのアンケートでは賛成多数だったが、設置場所の近くの住民の同意を得られず断念。現在別の場所での設置を検討中。(寿町会)

④防犯パトロール隊(22 名：男性 12 名、女性 10 名)が月 2 回行っている。(十余二緑町町会)

⑤町会防犯講習会、毎週日曜日の防犯パトロール、青パトによる年末防犯パトロールを実施している。(宿連寺町会)



【環境美化活動】

ごみ収集場管理や地域の清掃活動も大切な町会活動です。住みよい地域づくりは皆さんで進めたいです。

①ごみ集積所を組み立て式ごみ集積所を各所に設置し完了した。(布施新町町会)

②ごみ集積所のクラス被害防止のため、町会も町会予算や資源ごみ還付金を基に補助金を(会員 1000 円、非会員は 500 円)拠出し、ごみ集積所ごとに必要な大きさの防御ネットボックスを購入し設置。(東山町会)

- ③本年度から花壇作りを始めた。またごみの出し方に若干難がある人がいるが、管理人や役員の対応で何とか乗り切っている。(クレスト柏自治会)
- ④ごみ集積所のごみ置き場をネットからカラス除けボックスに交換した。カラスの被害激減。(寿町会)

【お祭り、文化祭、運動会、イベント】

町会のイベントは人と人が顔を合わせ、懇親を深める大切な行事であり、これが町会のメインイベントとなります。担い手不足で実施が危ぶまれる町会もありますが、若い世代が活躍できる場でもあるので、企画から運営まで委託することも一案です。



- ①コロナ禍で中止していたお祭りを再開。子供神輿や山車、各種ゲーム、太鼓の披露、バザー、射的など小さいお子さんからお年寄りまで楽しんだ。お祭りには、町会内の子供会、踊りの会等多くの協力団体や有志の会（お祭りの時だけ活動）などが参加。(東山町会)
- ②買い物困難者のため移動販売やガソリンの配達を業者に依頼したが、採算が合わないとのことで受けて貰えなかった。(クレスト柏自治会)
- ③コロナ禍の中では夏祭り、餅つき大会を中止した。その代わり昨年10月には「親と子の集い」を子供会中心に実施し。太鼓、粘土工作、竹トンボ作り、ゲーム大会・・・等4つのブースに分けて、参加者にスタンプラリーをしてもらった。参加人数約50名、各催しは町会内で得意な方を募り先生役になって貰った。(寿町会)
- ④ふれあい行事として「ふるさと祭り」「キッズ防災デイキャンプ」「諸芸作品展・新年会」を行っているが、高齢化で見直しを迫られている。
(十余二緑町町会)
- ⑤4年ぶりに「桜まつり」を開催。小雨のため急遽プログラムを変更して会館内で射的等のゲームを行った。またキッチンカー（町内の方）を会館前に停め、だし巻き玉子等を販売したところ多くの方々が購入。集客では町会外の富勢西小「おやじの会」の協力を得た。これから納涼盆踊り大会や芋堀大会、クリスマス会を予定、町会グランドゴルフ大会、ふるさと協議会主催の八朔相撲等を予定。(宿連寺町会)

3) ICT化への取り組み

ここ数年徐々に ICT 化を取り入れている町会が増えている実感があります。スマホの保有率も上がっていることから、自然に ICT を活用し連絡を取り合っていることが分かりました。

その一方、町会の情報発信(ホームページや SNS 回覧等)や、引継ぎが容易な町会運営情報の蓄積については、各町会の取り組みには大きな差異があります。比較的若い役員が多い町会では自然に ICT を利用していますが、小規模の町会には必要性が無く、またあまり普段利用していない役員が多い町会では躊躇している様子です。

最近では、町会費集金も ICT を活用したり、振り込み方式を取り入れてキャッシュレス集金を取り入れている町会もあります。

これからは、各町会で若い会員を選抜し、ICT 活用検討プロジェクトを設置することも一案と考えます。

- ① 役員には一斉メール連絡体制を実施。例えば学校からの緊急メールなどを配信。(東山町会)
- ② 世帯数が少ないこともあり必要性を感じない。(ミックスガーデン柏の葉自治会)
- ③ 役員間(全員ではないが)ではメールや LINE を使って、連絡を取り合っている。PC 使える役員 9 名。2021 年 12 月に現町会長自らホームページを開設し、更新も行っている。(寿町会)
- ④ 町会資料の ICT 化(データ化)を推進中。役員は LINE で連絡を取り合っている。集金活動は見守り活動の一環とも考えており、Face to Face を大切にしたいとも考えている。事務的なことは ICT 化を図り、そのほかは顔の見えるつながりの方が良いと考えている。(宿連寺町会)
- ⑤ LINE で情報交換を行って負担軽減をしている。(香取台町会)
- ⑥ 自治会活動の可視化、回覧物配布業務の効率化、災害情報や安否確認のリアルタイム化を目的に自治会アプリ(JichiNavi)を導入。また保管されていた資料は紙文書が多く、保管場所に困るのと火災や盗難の事を考慮し、資料の電子保存を推進した。(塚崎二丁目自治会)
- ⑦ LINE Works を役員の連絡用に活用しているが、文書も併用している。また、ホームページにある「みんなの広場」に各町会のエリアを設けて意見交換出来る環境を整えたが、活用はこれからである。(藤心ふるさと協議会)

4) 市民活動団体等との連携

労働環境や価値観の変化に合わせ、町会運営も変化が求められています。役員だけで運営することは負担が大きく、多くの協力団体や地縁に拘らない市民活動団体や NPO と連携することも必要な時期になりました。毎年交代する役員では町会運営の知識や技能の継承が難しく、同じメンバーで同じ活動を継続している団体と協力し合うことが大切だと思います。多くの団体と連携することにより、持続可能な町会活動が実現できるものと考えます。

- ①「みらいプロジェクト」や「いきいきネットワーク」「防犯パトロール」等の市民団体の活動が活発（[布施新町町会](#)）
- ② コロナ禍で中止していたお祭りを再開。お祭りには、町会内の子供会、踊りの会、太鼓の会、天寿の会（シルバー会）、野球部、うさぎの会（サロン）、有志の会（お祭りの時だけ活動）などが参加。（[東山町会](#)）
- ③地域内の小学校と非常に良好な関係にあり、防災行事での場所の利用や職員の多数参加がある。（[寿町会](#)）
- ④町会を支える「支え手」が多く、行事实行ボランティア（68 名）、グリーンピース（年 7～8 回のサロン活動、町会が支援、10 名）、防犯パトロール隊、にっこりサポート緑町（ごみ出し支援）が活動中。子供会や緑樹会（老人クラブ）があり、町会活動を支えている。（[十余二緑町町会](#)）

以 上



6. アルバム

第1回町会活動講座（令和4年9月27日） テーマ：住民が入りたいと思う町会になるためには ～防災活動を通じた加入促進～



ハイブリッド会議で開催しました



会場でのグループ討議の様子

第2回町会活動講座（令和5年9月26日） テーマ：町会とボランティア団体との連携



久しぶりに会場集合で開催しました



ボランティア団体の内山氏の講演

ICT 活用講座・基礎編



第3回基礎編（令和4年7月23日）



第4回基礎編（令和5年7月22日）

ICT 活用講座・実践編



第1回実践編の受講風景
(令和4年12月2日)



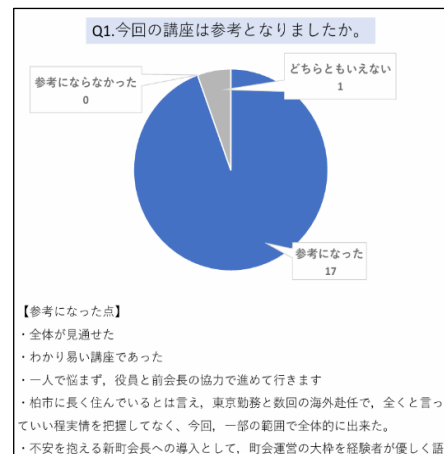
第2回実践編の講義内容
(令和5年11月11日)

新任町会長スタンバイ講座



受講風景

第1回目 令和4年3月25日
第2回目 令和5年3月5日



好評だったアンケート結果



取材先の各町会役員の皆さま



西原第六町会の役員の皆さま



東山町会の柏原会長



クレスト柏自治会の役員の皆さん
杉澤理事 井澤副会長 船田書記



ミックスガーデン柏の葉 上野会長



寿町会 細貝会長



十余二緑町町会 満島会長

7. 資料編

1) お役立ち事業（補助金等）

- ①地域活動支援補助金（プラステン）
- ②防犯灯維持費・設置費・修繕補助金
- ③町会等への補助制度申請様式等一覧
- ④資源回収報償金
- ⑤行政連絡業務交付金
- ⑥柏市ふるさとセンター整備事業補助金
- ⑦町会等への補助制度
- ⑧自主防災組織設立補助金
- ⑨掲示板設置等補助金
- ⑩防犯灯

以下もしくは右の QR コードをご参照下さい。

→ <https://www.city.kashiwa.lg.jp/region/chokai/hojo/index.html>



2) 窓口案内

- ①柏市 市民生活部 市民活動支援課

電話番号：04-7167-1126 FAX：04-7167-6644

以下もしくは右の QR コードをご参照下さい。

→ <https://www.city.kashiwa.lg.jp/shiminkatsudo/shiseijoho/shisei/soshiki/chikishien.html>



- ②柏市地域協働を考える会

メール：h-fukatsu@jcom.home.ne.jp（担当：深津）

ホームページ：以下もしくは右の QR コードをご参照下さい。

→ <https://kyodoukai.org/>



3) 参考資料（各 URL または右をご参照下さい）

- ①柏市町会一覧（以下の該当部分をご覧ください）

以下もしくは右の QR コードをご参照下さい。

→ <https://www.city.kashiwa.lg.jp/shiminkatsudo/region/chokai/kanyu/2085.html>



- ②ふるさと協議会連合会（以下の該当部分をご覧ください）

以下もしくは右の QR コードをご参照下さい。

→ <https://sites.google.com/site/furukyo/top>



③柏市町会、自治会、区など 役員体験談

以下もしくは右のQRコードをご参照下さい。

→ <https://www.city.kashiwa.lg.jp/documents/2079/taikendan.pdf>



8. 町会等活動講座と取材活動の紹介

柏市市民活動支援課と柏市地域協働を考える会は、協働事業として平成27年度より「町会等情報交換会」を、令和3年度に「町会等活動座談会」を、令和4年度以降に「町会等活動講座」を開催してきました。それらの会合を重ね、各町会で工夫や努力をしている内容を情報共有し、その内容を全町会へ情報提供してきました。

是非、この冊子をご覧になった方は、次の機会にはご参加頂けると幸いです。また、他の町会役員の皆さまにも、ご参加をお勧めください。

【町会等情報交換会】

第1回（平成27年度）～第14回（令和3年度）

【町会等活動座談会】

第1回～第2回（令和3年度に2回開催）

【ICT活用講座】

基礎編：第1回（令和3年度）～第3回（令和5年度）

実践編：第1回（令和4年度）～第2回（令和5年度）

【町会等活動講座】

第1回（令和4年度）～第2回（令和5年度）

【新任町会長等スタンバイ講座】

第1回（令和4年度）～第2回（令和5年度）



上記は、以下もしくは右のQRコードをご参照下さい。

→ <https://www.city.kashiwa.lg.jp/region/chokai/korekaranochiki/johokokan/index.html>

【町会運営のコツ】

①会則に則って運営しよう！

運営し難い場合は、会則を変更しよう！

②困ったり、悩んだらひとりで悩まず、皆に相談！

柏市市民活動支援課や協働会も味方です！

③活動3割、楽しみ7割の気持ちで！

④深追いせずに、寛容の心で！